



総会で挨拶する山下武右会長

昨年初めに顕在化した新型コロナウイルス感染症は収束するどころか、新たな変異株も現れて社会を困惑させています。対策を講じてできることに取り組む、との姿勢で児玉源太郎顕彰会は、令和3年度総会を5月22日に周南市文化会館3階展示室で開催しました。昨年は緊急事態宣言下で書面開催、顔を合わせての総会は2年ぶりでした。

議案は役員を選任、令和2年度事業報告と収支決算、令和3年度事業計画と収支予算の3議案で原案通り承認されました。役員選任は周南青年会議所理事長交代に伴い、幹事が河村啓太郎氏から吉岡

総会には40人が出席、山下武右会長が「顕彰会は設立して6年目に入ります。順調な活動は皆様のご支援、ご協力のおかげです。コロナ禍で制約を受ける中、昨年は児玉源太郎の生涯を描いたDVD全3巻を製作、地元の学校や市民センター、全国47都道府県の中央図書館などに寄贈して普及に努めました。これからも地道に顕彰活動を続けていきたい」と挨拶しました。

コロナ禍での開催
児玉源太郎顕彰会総会

ほんちゆうつうれん
編集・発行
児玉源太郎顕彰会
〒745-0874
山口県周南市公園区5854-41
周南文化協会 内
TEL. 0834-22-8190
印刷 佈 精文社
山口県周南市若宮町1-55
TEL. 0834-21-1611



会議の全体風景

寛志氏に引き継がれるものです。事業報告は、会報「藤園」5号とニュースレター「本丁通信」7号、8号の発行、7月24日の「藤園忌」には児玉神社（黒神直大宮司）で命日祭、菩提寺の興元寺（金子清学住職）で墓前供養を開催、「藤園忌」にちなんだ俳句募集など。茶会はやむをえず中止しました。2年がかりで取り組んだDVD「児玉源太郎 未来を築く」（全3巻）が完成、200セットを寄贈、さらに100セットを会員希望者に頒布しました。会員は寄付金8人、賛助会員48件・人、個人会員315人。総数で371件・人。ほぼ前年並みでした。事業計画では、会報「藤園」6号とニュースレター「本丁通信」

令和2年度収支決算と令和3年度収支予算は次頁に掲載していますのでご覧ください。

9号、10号の発行、7月17日に第5回藤園忌の茶会（今年度中止）、24日に命日祭と墓前供養、6月から7月にかけて俳句募集。児玉源太郎ゆかりの地を訪ねる第2回台湾の旅はコロナ禍のために昨年から中断、状況を見ながらまた再開する予定です。奥州市の後藤新平顕彰会、札幌市の新渡戸稲造と札幌夜学校を考える会、乃木希典を顕彰する東京の乃木中央会との交流も進めます。これらの議案が承認されたあと、来年度遷座百年を迎える児玉神社の黒神宮司から近く奉賛会を発足、記念事業に取り組むことへの協力依頼がありました。総会のあと、DVD「児玉源太郎 未来を築く」制作ディレクターの竹村昌浩さんをお招きして作品を視聴しながら源太郎の生涯と魅力を語っていただきました。



講演される竹村昌浩さん

令和3年度 収支予算書

【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	前年度 決算額	備考
繰越金	1,292,927	12,775,177	令和2年度より
会費	1,500,000	1,418,000	個人会費
			賛助会費
寄付金	500,000	3,875,000	寄付金
雑収入	200,000	403,353	会報「藤園」販売 「藤園忌」茶会チケット
			DVD販売
			利息等
合計	3,492,927	18,471,530	

【支出の部】

(単位:円)

科目	予算額	前年度 決算額	備考
会議費	50,000	0	会場費等
通信費	300,000	328,331	切手・葉書 郵送代
消耗品費	100,000	150,728	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,000,000	1,159,400	「藤園」「本丁通信」、封筒
備品購入費	50,000	0	
書籍購入費	50,000	59,470	
渉外費	50,000	45,600	慶弔費
宣伝広告費	10,000	7,700	ホームページ
事業費	700,000	4,581,360	総会・記念講演会
			「藤園忌」茶会 「藤園忌」命日祭・墓前供養 「藤園忌」俳句募集 各団体との交流
			負担金
			事務局費
手数料	50,000	55,167	郵便振替手数料
基金	0	10,000,000	
予備費	302,927	0	
合計	3,492,927	17,178,603	

令和2年度 収支決算書

【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	備考
繰越金	12,775,177	12,775,177	令和元年度より
会費	1,000,000	1,418,000	個人会費 624,000
			賛助会費 794,000
寄付金	3,000,000	3,875,000	寄付金
雑収入	180,000	403,353	会報「藤園」販売 17,400
			DVD販売 385,000
			利息等 953
合計	16,955,177	18,471,530	

【支出の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	備考
会議費	50,000	0	会場費等
通信費	300,000	328,331	切手・葉書 郵送代
消耗品費	100,000	150,728	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,200,000	1,159,400	「藤園」「本丁通信」、封筒
備品購入費	50,000	0	
書籍購入費	50,000	59,470	
渉外費	50,000	45,600	慶弔費
宣伝広告費	50,000	7,700	ホームページ
			事業費
			負担金
			事務局費
事業費	3,500,000	4,581,360	「藤園忌」命日祭・供養 71,155
			藤園忌俳句・記念講演会 333,405
			DVD製作 4,165,700
			新渡戸稲造と札幌遠友夜学校 を考える会との交流 11,100
負担金	10,000	15,000	諸会費
事務局費	800,000	775,847	賃金・賃料・光熱水費
手数料	50,000	55,167	郵便振替手数料
基金	10,000,000	10,000,000	児玉源太郎顕彰会基金へ
予備費	745,177	0	
合計	16,955,177	17,178,603	

(収入) 18,471,530 - (支出) 17,178,603 = (残高) 1,292,927



児玉家墓所での墓前供養

児玉源太郎顕彰会は「藤園忌」の7月24日、児玉神社（黒神直大宮司）で命日祭、菩提寺の興元寺（金子清学住職）で墓前供養を行いました。1年延期された東京五輪開会翌日にあたりました。盛夏のさなか、顕彰会の役員、会員ら有志11人が参列し、児玉源太郎の遺徳をしのびました。

児玉神社では、拝殿で黒神宮司

第5回「藤園忌」 命日祭と墓前供養



来年に遷座百年を迎える児玉神社

の祝詞が奏上され、山下武右会長が代表して玉串を捧げました。児玉家の墓所は児玉家累世の墓を真ん中に、向かって左手に源太郎遺髪塔、右手に義兄次郎彦、姉の久子夫妻の墓が並びます。金子昌寛副住職らの読経とともに参列者が焼香しました。このあと、顕彰会会員で周陽朗詠芙蓉会の森谷京蓉会長、柴田優岳師範が源太郎の漢詩を献吟しました。

児玉神社遷座百年へ 奉賛会設立 活動開始



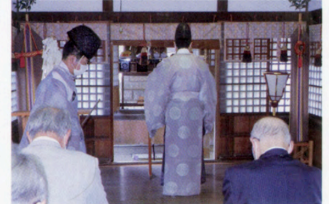
周南市児玉町の児玉神社（黒神直大宮司）は来年で遷座百年を迎えます。記念事業や社殿の修復、境内の整備、児玉源太郎の功績紹介などに取り組む奉賛会を7月24日設立、活動を始めました。

児玉神社は大正7年（1918）に神奈川県藤沢市江ノ島の児玉神社より分霊を譲り受け、大正11年12月15日遷座祭を斎行したのを創始としています。地元の有志の発願によって遷座されたこの日は、徳山港開港記念と併せて盛大に奉祝されたと伝えられています。

源太郎の命日にあたる7月24日の「児玉神社遷座百年奉賛会」設立総会には17人が出席。会則、役員・顧問、記念事業、奉賛活動、活動予定の議事について諮られ、承認されました。事業は遷座百年大祭と奉祝行事、社殿修復改良・耐震工事、境内の石垣・植栽整備、児玉源太郎の功績紹介など。

来年3月10日の例祭で起工、7月24日の「藤園忌」命日祭で竣工

予定。遷座百年大祭、奉祝行事は来年10月に開催予定。事業予算五千万円。奉賛会



児玉神社命日祭

に就任した児玉源太郎顕彰会の山下武右会長は「日露戦争、台湾総督の功績、郷土への海軍燃料廠の招致、児玉文庫の開設など、愛国心、隣人愛、郷土愛の3つが児玉源太郎の大きな特徴。奉賛会の活動を通して後世に伝えていきたい」と挨拶しました。

- ほかの役員は次の通り。（敬称略）
- ◇副会長 卜部博文（遠石八幡宮 責任役員） 岡田幹矢、藤井英雄、小野英輔（児玉源太郎顕彰会副会長） 林靖彦、松下博宣、原田康宏（児玉神社責任役員）◇監事 西崎博史（児玉源太郎顕彰会事務局長） 藤井宜章（同事務局次長）
 - ◇顧問 毛利就慶（徳山毛利家当主） 高村正大（衆議院議員） 藤井律子（周南市長） 宮本治郎（徳山商工会議所会頭） 佐伯哲治（新南陽商工会議所会頭） 黒神公直（遠石八幡宮名誉宮司）

第5回「藤園忌俳句」

入賞作品決まる



児玉源太郎顕彰会は、7月24日の「藤園忌」にちなんだ俳句を6月から7月にかけて募集しました。

俳句は雑詠。「児玉源太郎に関すること」と夏の季節を詠んだ当季雑詠。1人3句まで。117人から330句が寄せられました。

無記名清記のうえ、選者の宇多喜代子さん（現代俳句協会特別顧問）、坪内稔典さん（俳人・柿衛文庫理事長）、久行保徳さん（「草炎」主宰）が選考して特選3点、入選10点、佳作17点の計30点を決定しました。

「藤園忌」は児玉源太郎が書などに晩年使っていた雅号です。器量の大きな政治家、軍人として日本の近代化を推進した実力者で、ふるさとには私財を投じて私設図書館「児玉文庫」を作りました。文庫は明治36年から戦災で焼失する昭和20年まで42年間にわたり、教育の向上に大きな役割を果たし



ました。現在の周南市立中央図書館の前身にあたり、一昨年3月の中央図書館リニューアルオープンの折、「児玉文庫メモリアル」の愛称が付けられました。

徳山港開港の大正11年遷座祭が行われた児玉神社、台湾から移植された記念樹「タイワンゴヨウ」の松、菩提寺の興元寺、生家跡の産湯の井戸、6年前に整備された生誕の地など、市内には児玉源太郎をしのぶ史跡があります。入賞作品は次の通りです。

特選

まなざしは海のはるかへ藤園忌
周南市 木村しづる

入選

振り向けば嘉永五年の雲の峰
柳井市 片山 淳子
青嵐祭神児玉源太郎
下関市 小田 正夫

緑陰の椅子となりたる藤園忌
柳井市 片山 淳子

アロハシャツ着て大将の昼餉かな
大島郡 三原 伊文

藤園忌キッチンカーのカレーの香
宇部市 河村千代子

小鳥来る児玉文庫の広い窓
三田市 新元 光代

兜煮の凛々しき目玉藤園忌
京都市 中川みどり

藤寝椅子少年の日のころざし
周南市 木村たけま

南風より児玉文庫に本届く
香芝市 里井貴美子

藤園忌産湯の井戸に小鳥来る
周南市 河村加南子

眼差はいつも先の世藤園忌
防府市 尾辻のぶほ

大将の顛頂涼しき児玉の忌
周南市 津森 敏伸

佳作

図書館に残る明治や百合の花
周南市 吉浦百合子

藤園忌蟬が暮色をかきみだす
長門市 松本 清水

元帥の産湯の井戸に藤垂るる
周南市 谷村 道子

咲く花も散る花もあり藤園忌
光市 兼崎 人士

図書館の隅から隅まで梅雨明ける
萩市 河本 理恵

緑陰の縷縷たる戦ぎ児玉像
周南市 山根 志づ

大将の巖の如き昼寝かな
山口市 渡邊 貴之

余り苗育つ水音藤園忌
周南市 堀口 孝子

みづうみの水のふるへる蟬時雨
長門市 河瀬 洋司

樟若葉五彩まとうて藤園忌
周南市 野村みどり

藤園忌武田百合子の本を貰う
周南市 永瀬 昌宏

元帥の遺愛のハット雲の峰
周南市 中坪 光江

おっあれが児玉神社か夏来る
周南市 松村 千昭

ランドセルの寄り道コース藤園忌
下松市 白石 牙子

緑陰や視線の先にある学校
周南市 松岡 哲彦

国ひとつふるさとひとつどんどの大
長門市 横田 敦子

夕焼や源太郎像屹立し
光市 藤井 安廣



第5回「藤園忌俳句」 彼は

選者 久行保徳

あれこれ

日本の近代化を推進した明治の偉人児玉源太郎。その郷土の先達の偉業、功績を後世に伝えるべく発足した児玉源太郎顕彰会の中で企画された「藤園忌俳句」は、今年で五回目を迎えました。

一般的には児玉源太郎は軍人、政治家との印象ですが、私には私財を投じての図書館「児玉文庫」を開設した向学心、その文化面への思いが強くあります。

さて、今年の「藤園忌俳句」は例年並みの応募数でした。規定は児玉源太郎に関することだけでしたが、第三回からは「当季雑詠」が加えられて、作句の幅も少しは広がって応募もしやすくなったのではと思っています。

このような活動は、同じ県内の長門市で実施されていた童謡詩人金子みすゞの顕彰を目的とした、俳句の募集と似たところもありますが、残念ながら三年前の十八回をもって終了しました。

地方季語の定着は容易ではありませんが、先ずはこの俳句を通して児玉源太郎を如何に多くの人に

知ってもらうかが肝要で、その上で忌日の「藤園忌」をどう定着させて行くかを考えています。

長引く新型コロナウイルス感染症の拡大で、予定していた表彰式と坪内稔典先生の記念講演は止む無く中止するに至りました。

折角のこと故に顕彰会では、収束の兆しを待っての延期をも検討されましたが、誠に残念な結果になりました。

◇ ◇ ◇

それでは今回の皆さんの力作に少しふれてみます。

先ず特選の三句ですが、まなざしは海のはるかへ藤園忌

木村しづを

は、極めてスケールの大きな光景が見えて来ます。更には源太郎の深い目差を窺うことも出来ます。

中七の措辞から児玉公園の銅像と対峙して作句した、そのリアルさが滲んできます。

振り向けば嘉永五年の雲の峰

片山 淳子

この嘉永五年の夏は児玉が生まれた年で、近代明治の十六年前。

夏の雲を象徴する積乱雲でもって源太郎の将来を、さらりと書いて作品を際立たせた手腕は見事と言うほかはありません。

青嵐祭神児玉源太郎

小田 正夫

青葉の茂る、やや強い風の日

周南市児玉町の児玉神社を訪れた時の作品でしょうか。

軍人、政治家としての児玉を、真正面から受け止めた作者の思いが、この導入部の措辞となったに違いないでしょう。

海軍次官の齋藤実に宛てた書簡からその関与が明らかになったと記者の太田匡彦さんは綴っています。

入選、佳作も其々に個性を出しての「藤園忌俳句」への取組みの姿勢を見せていただきました。

記事は2頁を割いて写真もコンピナート夜景など3枚を掲載。明治34年に山陽線が馬関駅(現下関駅)まで全通したことでそれまでの徳山―門司間の連絡船が廃止されて不景気となり、当時の徳山町をあげて誘致しました。

兜者の凛々しき目玉藤園忌

中川みどり

南風より児玉文庫に本届く

里井貴美子

眼差はいつも先の世藤園忌

尾辻のおほ

大将の顛頂涼しき児玉の忌

津森 敏伸

余り苗育つ水音藤園忌

堀口 孝子

応募作品には、秋や冬の季語がありました。児玉の忌日は七月です。歴史を俯瞰した興味深い記事は全国に大きな反響を巻き起こしました。

用する場合は、出来れば夏季のもの

児玉源太郎の生涯や児玉公園の銅像などにも触れていて、顕彰会としても嬉しい限りです。

朝日新聞「be」で紹介 周南コンピナートと児玉源太郎

周南市の石油化学コンピナートと児玉源太郎の関わりが9月11日(土) 付の朝日新聞別刷り「be on Saturday」企画記事「はじまりを歩く」の中で紹介されました。コンピナートのはじまりは、明治38年に操業を開始した海軍煉炭製造所で、誘致には当時の陸軍参謀次長であった児玉が

新刊紹介

台湾を目覚めさせた男 児玉源太郎

木村健一郎 著



著者は前周南市長の木村健一郎さんです。源太郎と台湾について長く興味を持たれてきた木村さんは、退任後のゆったりとした時間を利用して本書を書き上げました。読者は本書に一気に引き込まれます。意外なほど(著者に失礼!)楽しく、読みやすい。

李登輝氏に敬服し、個人的な親交もあつた木村さんは「児玉無くして過去現在の台湾なし、武士道に示された日本精神なくして李登輝なし、李登輝無くして民主国家台湾なし」と言います。それを具体的に論証したいとの思いから本書を著したのではないのでしょうか。本編の約半分の頁は台湾篇が占めます。台湾の古代・近代史から

起こし、日本統治開始前後、児玉総督時代下の財政・経済・民政発展の黎明期を、具体例を示して平易に記述。現在、民政・経済発展を遂げた台湾ですが、長く列強国、中国大陸に翻弄され続ける厳しさ、難しさの一端が理解できます。

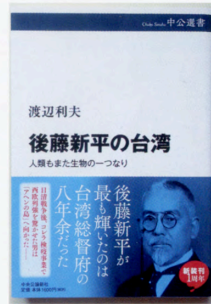
後半の篇では源太郎の生涯を記述しています。堅苦しくない文章でエピソードなども盛りだくさん。自ずと源太郎の魅力のな人間性が浮かび上がります。日露戦争開戦決定・戦勝・戦後講和の各プロセスで源太郎の冷静、的確な判断が、日本政府・軍部を正しく導いたことも論証されます。源太郎無ければ、日露戦争の形は全く異なっていました。

本篇以外の章も充実しています。序文・跋文では著者の思いを総括。児玉源太郎顕彰会の山下武右会長をはじめ、3氏の推薦文は各氏の源太郎への深い思いが込められています。資料篇では、源太郎の国会答弁録が興味深く、その能力・人物像を表します。源太郎の略年譜、台湾治世小史、膨大な参考文献はそれ自身が貴重な資料となります。楽しみながら源太郎を知るのが最適本で、折しも「藤園忌」の日に出版されました。

2021年7月24日初版
梓書院 1870円(税込)

後藤新平の台湾 人類もまた 生物の一つなり

渡辺利夫 著



「後藤新平が最も輝いたのは台湾総督府の8年余りだった」。本の帯に書かれた言葉が胸に刺さりました。

第4代総督の児玉源太郎の下、民政長官として台湾の近代化推進のため、才能をいかんなく発揮した後藤新平。初代満鉄総裁、二度の内務大臣、外務大臣、東京市長など数々の要職をこなして誰もが知る大政治家の一人です。

彼の素質と思想が最大限に生かされ、力量が発揮されたのが四十年代の台湾総督府民政長官時代。「アヘンの島」として統治が難しかった台湾の植民地経営がなぜ成功したのか。開発経済学の泰斗が明らかにします。

著者は昭和14年生まれ。慶應義塾大学で経済を学んだ後、筑波大

学、東京工業大学教授を経て拓殖大学教授、総長、学長を歴任。専門は開発経済学、現代アジア経済論。昨年4月に「台湾を築いた明治の日本人」を刊行、会報「藤園」5号でも紹介しました。

本書は第1章「アヘン漸禁政策―人間は何かに依存せずに生きてはいけない―」、第2章「後藤新平の経緯―旧慣こそ台湾の民法である―」から第8章「傷心―頓挫する厦門出兵―」、終章「残照」まで、年来の思想「生物学の原理」に基いて人材を登用しながら土地調査、築港、道路、鉄道、上下水道の整備、衛生思想の普及などを進める物語が展開されます。

原資料にあたり、著者の想像力を駆使して会話を再現、ノンフィクションノベルの雰囲気が出て後藤新平の姿が浮き上がります。伊藤博文、桂太郎、山県有朋、西郷従道らも登場、児玉源太郎との総督府就任時の方針、後藤に対する満鉄総裁への説得など生き生きと伝えます。児玉の最期を知って著者は後藤に語らせました。「俺の人生は、児玉という巨魁の掌の中にある」と。

2021年1月10日初版
中公選書(中央公論新社)

1760円(税込)



「窓」活動を始め、5年余り。いろいろな声が届きます。周南市が大雨に見舞われた7月には奥州市の後藤新平顕彰会副会長、高橋力さんから災害お見舞いが届きました。幸いにも大きな被害はありませんでしたが、そのお気持ちを嬉しく受け止めました。有り難うございました。

昨年完成したDVD「児玉源太郎 未来を築く」の製作にあたった竹村昌浩さんからも一文が寄せられました。

「児玉源太郎」を製作して

竹村昌浩 (周南市在住)

「児玉源太郎 未来を築く」はコロナ禍で社会矛盾が一気に顕在化し、私たちの生活が分断されるさなかに完成しました。「未来」が一人一人の手に委ねられた今、自分はどう生きるかが、そのままこれからを創ることになります。

児玉源太郎の原理は当事者としての覚悟でした。軍人として政治家として「生命こそが最も大切である」という指針は揺らぎませんでした。「仕方がなかった」とは言わないことが「今自分に何が出来たのか」という姿勢を支えました。未来を担う子どもたちに勇気を持つて生きてほしい。

児玉は決して完璧な人間ではなかったが、だからこそ、いつも周囲に目を配り、勉強を続けた。周りの人たちの笑顔が自分の喜びになる人間に育ってほしい。児玉源太郎の生涯をたどる旅で学んだことは、その功績をほめたたえるだけでなく、一人一人が「自分の心の児玉源太郎」を育て対話しながら



DVD「児玉源太郎 未来を築く」

ら生きていくことでした。(映像プロデューサー・株式会社竹企画代表取締役)

木村健一朗著「台湾を…」

地元の中学校。

高校などへ贈呈

前周南市長の木村健一朗さんが著した「台湾を目覚めさせた男 児玉源太郎」(粹書院)をご本人から7月27日、児玉源太郎顕彰会に50冊贈呈されました。地元の中学生、高校生に読んでほしい、との著者の願いを託して顕彰会では8月2日、周南市教育委員会の厚東和彦教育長を通じて各中学校へ。高校へは個別にお届けしました。早速、学校図書として活用されます。

また、東京・児玉家の児玉紀さん、顕彰会初代会長の小川亮さん(故人)を支えられた洋子夫人、奥州市の後藤新平顕彰会、札幌市の新渡戸稲造と札幌夜学校を考える会にもお届けしました。皆さまからご丁寧なお礼のご挨拶をいただきました。こちらこそ、有り難うございました。

この本の紹介は前の6頁をご覧ください。



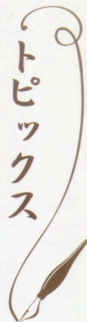
贈呈式での木村健一朗さんと山下武右会長(写真右)

「幌馬車の唄」資料届く 広島・上松敏弘さんより

今年5月発行の会報「藤園」6号で、顕彰会の山下武右会長が戦時中、台湾で流行していた「幌馬車の唄」について詳しい事情をどなたかご存じないでしょうかと呼びかけました。

7月になって、山下会長の知人から「広島島の友人から資料が届いた」と。驚いたのはほかならぬ山下会長ご本人。当時の背景や歌詞など多くの資料が寄せられました。「児玉源太郎顕彰会を作っておいてよかった」と述懐されています。

資料を届けてくださったのは広島市在住の上松敏弘さんです。早速、会報「藤園」やニュースレター「本丁通信」などを礼状とともにお送りしました。有り難うございました。



台湾の景勝地・鷺鷥鼻

源太郎 漢詩に詠む

毎年7月24日の「藤園忌」には、周南市東一の井手にある児玉家の墓所で墓前供養を行っています。読経、焼香のあと、いつも児玉源太郎の漢詩を献吟します。

台湾最南端の景勝地、鷺鷥鼻で過ごした折に詠んだ漢詩は「舟行如矢蹴潮流 白砂青嶂相映浮」。七言絶句には鷺鷥鼻の美しい光景を巧みに表現しています。今年も顕彰会会員で周陽朗詠芙蓉会の森谷京蓉会長、柴田優岳師範が和服姿で朗々と吟じ、参列者の胸に沁



みました。

墓前供養に参列された顕彰会副会長の藤井英雄さんから先日、鷺鷥鼻の灯台を含めた公園一帯の絵葉書(左上の写真)が届きました。最南端の岬は海上の難所で船乗りは誰もが知っている有名な場所。藤井さんは徳山海陸運送(現・トクヤマ海陸運送)社長を長年務め、世界の海に精通しています。退任されてこのほど海事コンサルタント会社を起ち上げられました。

源太郎は瀬戸内の徳山に生まれ、湘南の江ノ島を愛し、台湾の地にあつては鷺鷥鼻をお気に入りだったのでしょう。この漢詩は令和元年5月発行の会報「藤園」4号の表紙を飾り、紙面を割いて解説しています。

美しい「生誕の地」へ

有志が夏の集中清掃

周南市岐山通三丁目児玉源太郎産湯の井戸がある「生誕の地」を顕彰会会員や地元有志がこの夏、毎週のように草取りや樹木の剪定などで汗を流しました。おかげさまで利用者も増えて源太郎さんもさぞやお喜びではないかと想像しています。

児玉町の児玉神社、児玉公園でも地元の企業OBや有志らが16年前から毎月第一土曜日朝に清掃活動を続けています。感謝、感謝です。

編集室より

台湾への船旅

川上 浩史

徳山港の開港100年が近づき、児玉源太郎と海の関係に思いを巡らせています。

明治29年以降、大阪商船は台湾総督府の補助を受けて神戸と基隆を結びました。児玉が総督となった明治31年は山陽鉄道の徳山駅開業直後。後藤新平伝では後藤は神戸から大阪商船の台中丸に乗り、児玉は下関から合流したとされます。

台中丸は新造間もないイギリス製の3358総トン。それまでの1700トン級から面目を一新したそうですが、まだ基隆の築港前であり、ランチに移乗して上陸したようです。私もいつか、台湾までの船旅をしてみたいなと思うところです。

(新南陽郷土史会事務局長)

源太郎ゆかりの地を紹介

松本久美子

今回で「本丁通信」も9号となります。この名前の由来は、児玉源太郎の生家があった場所にちなんだものです。

生家の跡は、現在「児玉源太郎生誕の地」として整備されています。市内にあるいくつかのゆかりの地については、顕彰会で製作したDVDの中の冊

子でも紹介しています。

地元ケーブルテレビで放送している美術博物館の紹介番組「びびびの美」でもゆかりの地を取り上げました。この番組はYouTubeでもご覧いただけます。ご興味のある方はぜひどうぞ。(周南市美術博物館学芸課長)



QRコード

歴史をたどる

西崎 博史

暑さ寒さも彼岸まで。秋の彼岸も過ぎていよいよ秋本番。物思う秋です。

来年は徳山港開港百年、児玉神社遷座百年。大正11年12月15日の同じ日に開港記念式典と遷座祭を行っています。開港に向けては児玉源太郎も生前中一役買ったようです。地元有志が汗をかいて実現した徳山港と児玉神社。明治に動き出した海軍徳山煉炭所(のちに燃料廠)が戦後復興の中で一大コンビナート形成の礎に。今日の発展につながりました。歴史をたどる時、先人たちの苦勞を思います。

来年の記念事業を次の時代への足掛かりに。ともに踏み出しましょう。(児玉源太郎顕彰会事務局長)

